

専攻長挨拶（おわりに）

黒潮圏は世界で最もサンゴが豊富な東南アジアに位置しています。

本日その黒潮圏のフィールドからサンゴの海の保全を考えるというシンポジウムを開催できましたことは、まことに意義深いものがございます。

黒潮圏総合科学専攻は、高知大学のプロジェクト研究のうち、海洋生態系に関する調査・研究プロジェクトに5年間に渡って取り組んできました。

この間、黒潮を共有する日本とフィリピン、台湾を結ぶ黒潮トライアングルを研究フィールドとして設定し、海洋生態系の攪乱や生物資源の枯渇などを含む国境を越えて拡大する環境問題について3国が国際的に共同して研究する体制を整えてまいりました。

今日のシンポジウムは、サンゴの海の保全について自然科学の分野と人文社会科学の分野の両面から考察し、まさしく黒潮圏総合科学専攻が教育研究の在り方として標榜しております文理融合に合致する相応しい内容になりました。

さらに、本学の教員だけではなく、この黒潮トライアングルの中でサンゴの生態や保全について最前線で調査・研究されている国内外の方々にご講演をいただきましたことは、本専攻のプロジェクト研究の特徴と成果を表し、また、他機関との連携と国際共同研究の重要性を改めて認識するものでございます。

来年度から本専攻は「温暖化の適応」という新しいプロジェクト研究に着手しますが、このプロジェクトの中でもサンゴ研究を継続して進める計画です。

本日のシンポジウムにおける議論を活かし、サンゴの保全を通して海洋生態系と生物多様性が維持され、ひいては自然と人間が共存・共生できる社会をつかっていく方向へむすびつくことを祈ります。

最後になりましたが、貴重な調査・研究報告をいただきましたご講演者とコメントーターの方々に深く感謝致します。ありがとうございました。